

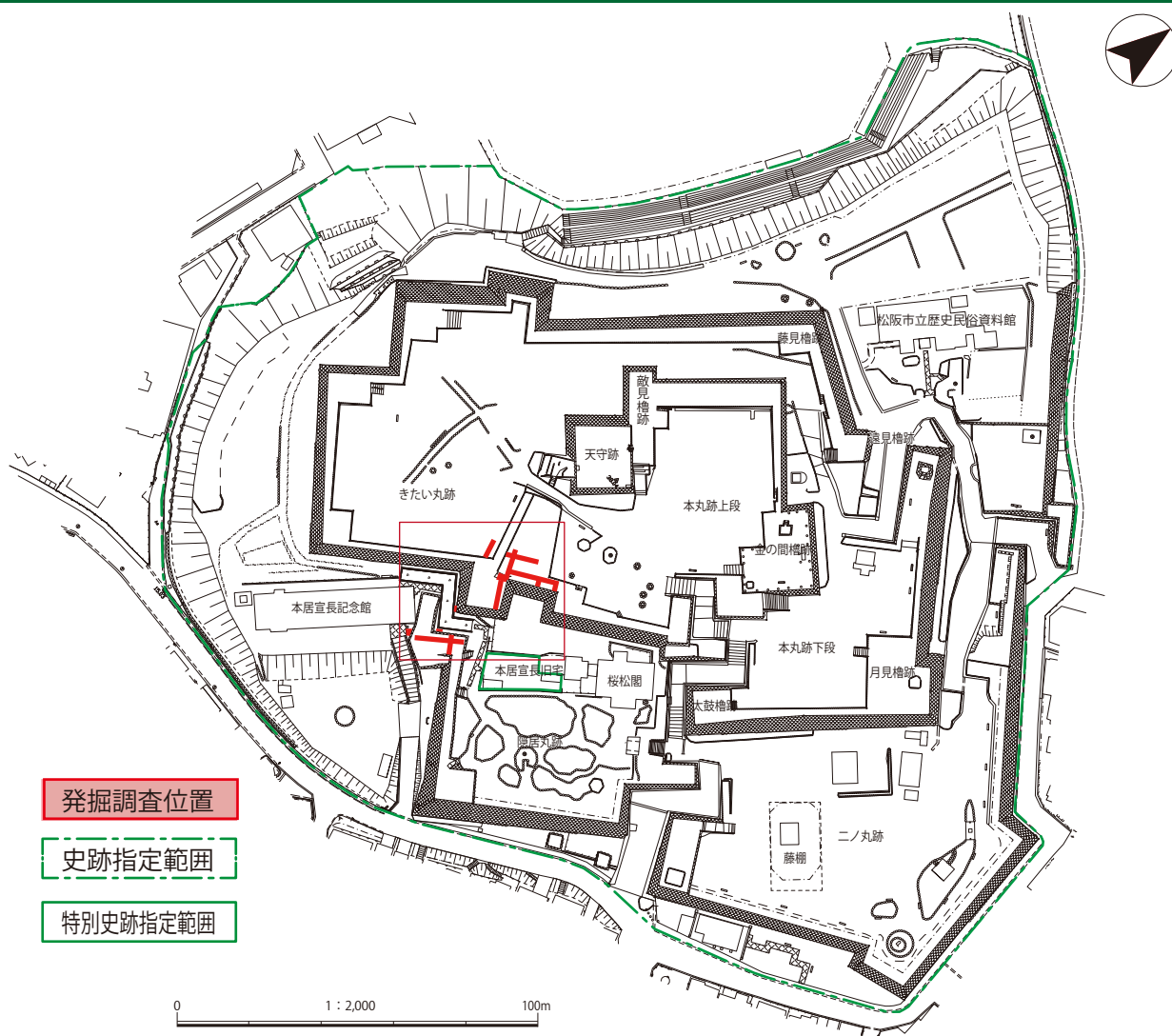
令和7年度 史跡松坂城跡発掘調査現地説明会資料

本丸跡上段・隠居丸跡・きたい丸跡 [第22次]

令和7年10月25日(土) 午前10時～午前11時00分 所在地：松阪市殿町（史跡松坂城跡内）

調査期間：令和7年6月18日～10月31日（予定）

調査主体：松阪市教育委員会 調査担当：松阪市産業文化部文化課 文化財センター



第1図 調査位置図 (S=1:2,000) 赤色で示した部分

松阪市は、国指定史跡松坂城跡を訪れるみなさんが安全・安心に利用・見学していただけるよう、史跡内の整備を計画的に実施しています。整備に伴う工事をはじめる前に、地下遺構の有無及び遺構面までの深さを確認するための発掘調査を継続しています。

今年度は、築石のズレやはらみが著しく今後解体修理を予定している本丸跡上段の石垣 (No.227～No.229) 周辺の発掘調査を行いました。



【写真1】 発掘作業風景

松坂城石垣について



第 2 図 松坂城跡石垣分布図

※『三重県松阪市殿町 史跡松坂城跡整備中間報告 平成 26 ～令和 3 年度事業』松阪市 2023 掲載図を転載

松阪市は文化財としての石垣の保存、来訪者の安全を考慮して、昭和 63 ～平成 15 年に損傷・変形した石垣の修理を行いました。しかし、近年の気候変動や石垣天端付近の樹木の生長の影響で所々の石垣にズレや変形が確認されるようになりました。そこで、石垣の現状把握を目的に石垣 189 面を対象に調査を実施。その結果を『史跡松坂城跡石垣調査報告書』としてまとめ、現在は石垣の保存整備の基礎的判断の拠り所となる石垣保存修理計画をもとに定期的に石垣の動態調査を実施し、その状況の観察・把握に努めています。

近年の動態調査の結果、石垣 (No.227・228) についてはズレやはらみの増大が著しく、将来的に崩落の危険性が高く早期の解体修理が必要と判断されたことから、解体修理に必要な情報を得ることを目的とした発掘調査を行うことになりました。

今回は、対象となる石垣上部の平坦面とその周辺、石垣基底部に調査坑区 (10 箇所) を設定し、地中に埋没する築石や石垣内部の栗石の状況を確認することを目的に調査を実施しました。



【写真 2】石垣No.227(左)・No.228(右) の状況

調査の成果

1. 本丸跡上段 (TP.1~4)

TR.1

石垣に囲まれた上部平坦面 表土直下は栗石が一面にひろがっているのを確認しました。栗石の大きさは様々ですが、大きなものの割合が多いようです。周囲の状況から、この部分は石垣基底部まで栗石が詰め込まれている(総栗石)可能性があります。調査では、栗石内部に太い樹根が入り込み石垣に悪影響を及ぼしている様子を観察することができました。

埋設していた石垣隅角部 調査前は階段になっていた部分で確認しました。隣接する石垣(№230)と一連のもので、天守跡方向にはほぼ直角に折れ曲がります。松坂城の絵図には、この隅角部を表現したものが複数あります。確認した石垣の上部に積まれていた築石は、公園整備の過程で取り除かれたものと考えられます。

TR.2・3

栗石 表土直下で栗石を確認しました。TR.1で確認した栗石と同様に、大きなものの割合が多いようです。TR.2とTR.4の交差部分から西(きたい丸側)は、大規模な改変を受け城に関連する石垣等の遺構は消滅しています。また、TR.3東半分の不織布でおおわれた部分は、平成3年度の石垣修復工事で修理した部分です。

TR.4

建物礎石 平成27年度実施の第5次調査で確認した埋設石垣の西側で確認しました。長径50cm、短径35cm、厚さ13cmの上面が平らな石が栗石上にすえられています。確認した礎石の南側にも、同じような石が地表に露出しています。調査範囲が狭いこと、確認できたのが1基ということで断言できませんが、この部分に櫓・多聞等の建物が存在した可能性が高まりました。

石垣の背面基盤層 裏込石の背後で確認しました。第5次調査で確認されたものの続きに相当します。近代以降に敷き詰められた新しい栗石を取り除いた時点で確認できました。また、背面基盤層上面から掘り込まれたゴミ穴からは、空き缶等の金属製品やサザエ・アワビの貝殻が出土しました。

2. 隠居丸跡 (TR.6・7、TP.1~3)

TP.1・2 ズレやはらみ等の変形が著しい石垣(№227・228)の根石の状況を確認するため、石垣の際に調査区(TP.1)を設定しましたが、上下水道・電気等の配管に阻まれ途中で掘削を止めました。同様に、本居宣長記念館(以後 記念館)と本居宣長旧宅の間に位置する石垣の際にも調査区(TP.2)を設定し地表から1.5mまで掘り下げましたが、根石(石垣の基底部に据えられた築石)に達することができませんでした。調査の結果、ふたつの石垣には



【写真3】 TR.1 全景 (北西から) *手前が隅角部

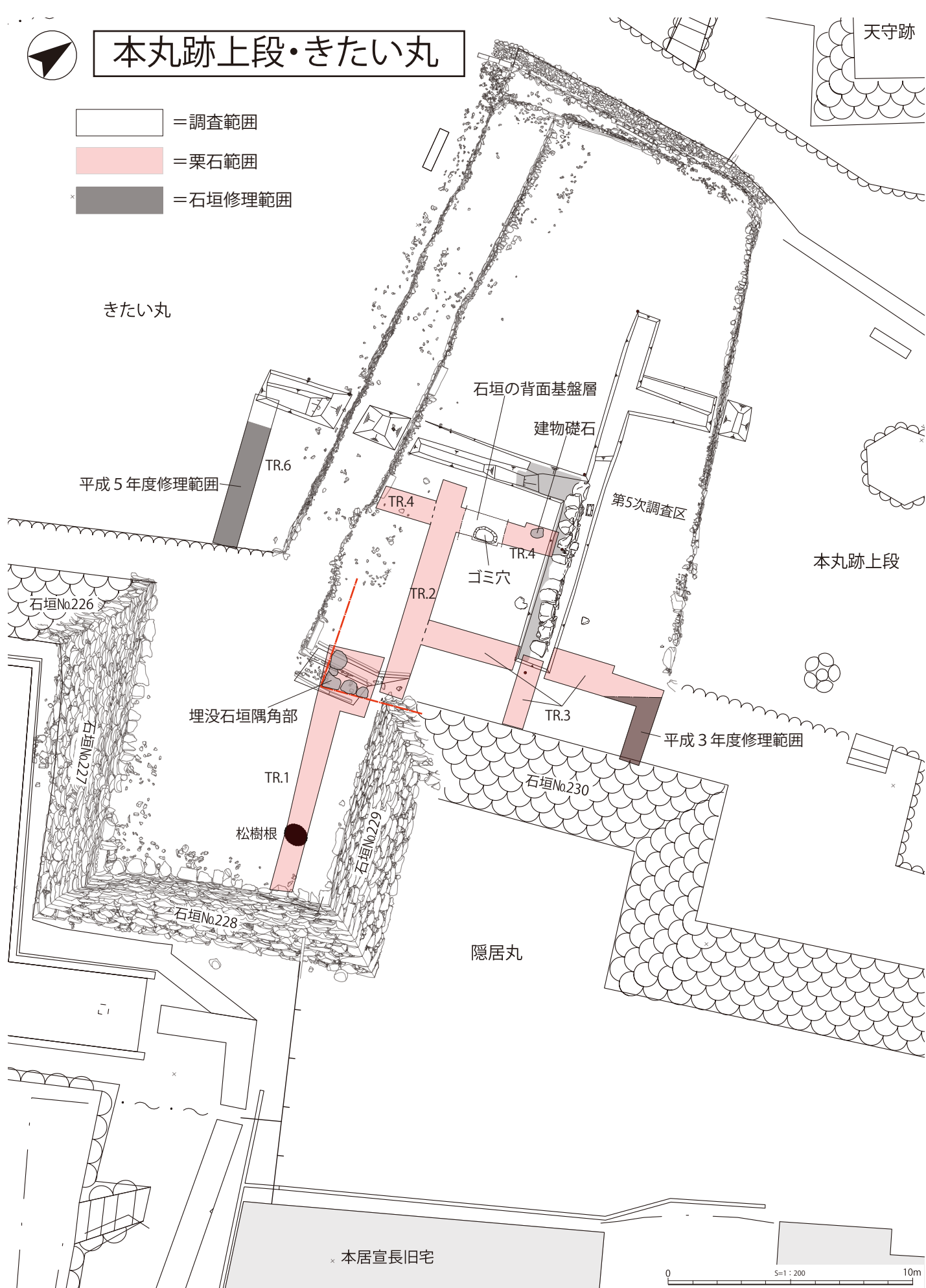


【写真4】 TR.4 全景 (北東から)
*手前:裏込石・礎石、中央:背面基盤層

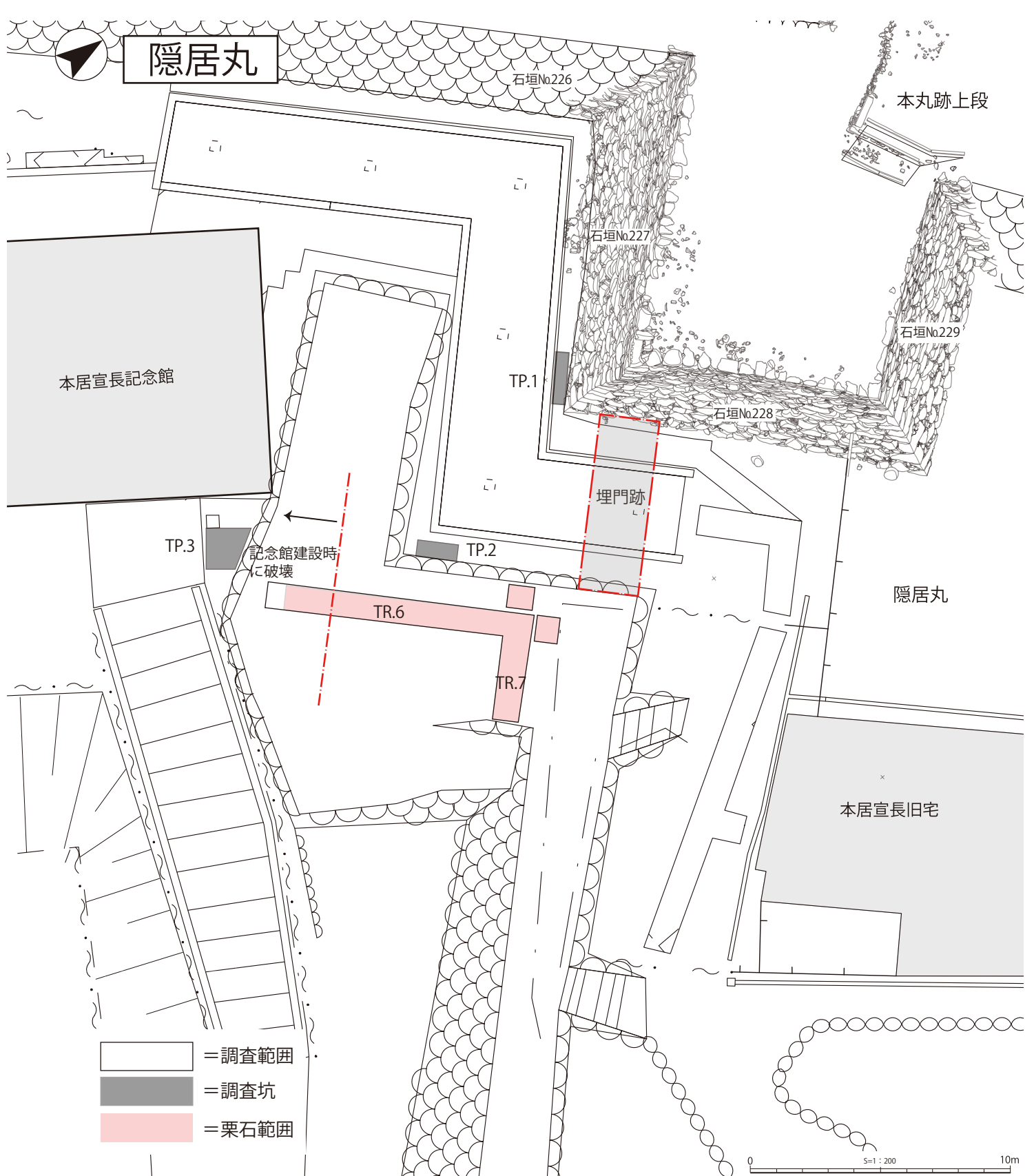


本丸跡上段・きたい丸

-  = 調査範囲
-  = 栗石範囲
-  = 石垣修理範囲



第3図 第22次発掘調査区配置図①本丸跡上段・きたい丸 (S=1:200)



第4図 第22次発掘調査区配置図②隠居丸 (S=1:200)

さまれた城内路は、現在の通路設置工事の際に埋め立てられていることがわかりました。

TP.3 かつて存在した石垣の根石等の残存遺構の有無を確認しましたが、遺構は確認できませんでした。記念館玄関前に位置する石垣は、城本来のものではなく記念館建築工事の際、元あった石垣の築石を利用して新しく積まれたものであることを確認しました。

TR.6・7 記念館と本居宣長旧宅の間に位置する石垣の構造把握のため、上部平坦面と斜面に調査区を設定し調査しました。その結果、石垣の内部は栗石で充填された構造（総栗石）であることがわかりました。記念館側の石垣は記念館建設時に削られて消滅し、残存する栗石が露出しています。



【写真 5】 TR.1 埋没石垣隅角部①(南から)



【写真 6】 TR.1 埋没石垣隅角部②(北西から)



【写真 7】 TP.1 地表下の石垣 (南東から)



【写真 8】 TP.2 地表下の石垣 (北西から)



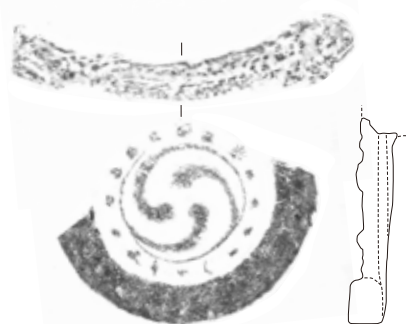
【写真 10】 TR.6 記念館建設時に消滅した
石垣の背面栗石 (南から)



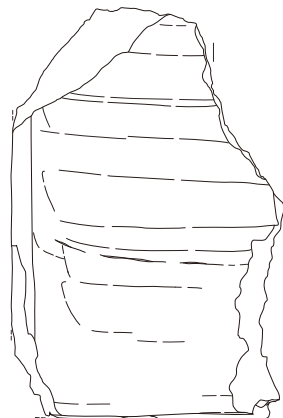
【写真 9】 TR.6・7 石垣内の栗石 (北東から)

出土した遺物について

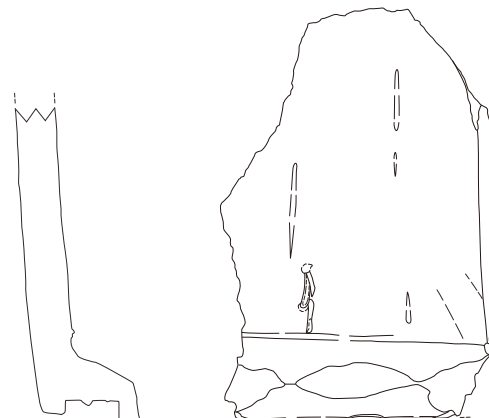
今回の調査では、遺物整理箱 30 箱分の遺物が出土しました。その大半は建物の屋根に葺かれていた瓦類です。時期的には文禄・慶長期のものが大半です。また、「葵紋」の瓦当片が出土していますが、本丸天守台横に明治 17(1884) 年創建(昭和 27 年御城番屋敷に移転)の南龍神社関連のものと考えられます。



1 軒丸瓦 (文禄～慶長期)



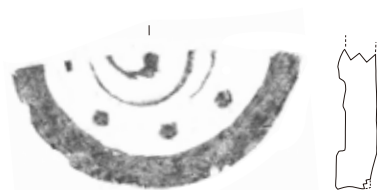
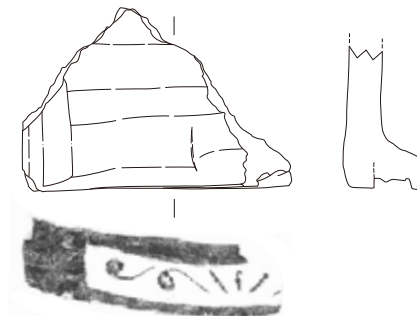
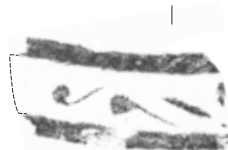
3 軒平瓦 (文禄～慶長期)



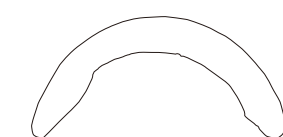
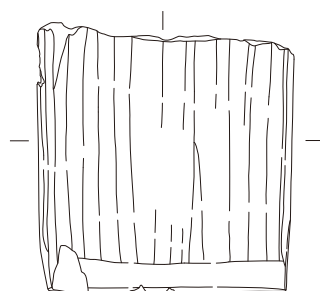
4 軒平瓦 (文禄～慶長期)



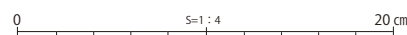
2 軒丸瓦 (文禄～慶長期)



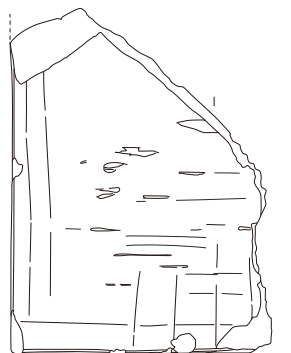
6 軒丸瓦 (江戸前期)



5 丸瓦 (文禄～慶長期)



7 軒丸瓦 (江戸前期)



12 軒平瓦 (江戸前期)



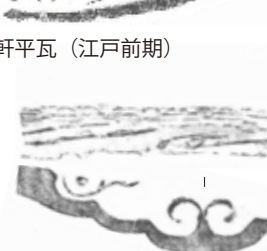
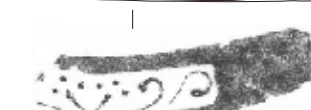
8 軒丸瓦 (明治?)



9 棧瓦 (明治?)



10 滴水瓦 (明治?)



11 滴水瓦 (明治?)

確認した埋没石垣について

埋没石垣の築造時期

今回確認した石垣は石垣No.230 と一連のもので、その上部は失われていますが、石垣No.230 の天端と同じ高さまで積まれていました。築石は自然石ですが、隅角部の算木積部分は四角く加工された築石が使われた新しい要素をもっています。天守台石垣の算木積は「野面積」で、未加工の自然石が積まれた築城時(天正期)の古い要素をもっています。このことから、今回確認した埋没石垣は文禄～慶長年間(1592～1614)に積まれたものであると推察します。

石垣が埋没した時期

過去に作成された絵図等の資料で、埋没石垣について調べたところ次のことがわかりました。

- ①資料がつくられた時期によって異なるが、今回確認した隅角部を表現したものが複数確認できる
- ②古いものは正保(1644～1648)に描かれた【写真 11】、新しいものは明治に描かれた【写真 12】がある
- ③昭和 42(1972) 年の公園平面図【写真 13】では、現在の形に描かれる

以上のことから、明治初期まで石垣が存在していたことがわかります。では、いつ頃石垣は埋められたのでしょうか？その謎を解くヒントが出土遺物にありました。それは、石垣を埋めていた土の中から見つかった「10 円硬貨」です。昭和 27 年に発行されたもので、外縁に刻み(ギザギザ)があることから「ギザ十」と呼ばれています。見つかったのは地面からかなり掘下げた位置で、石垣の上部を外しスロープ状に加工した際に紛れ込んだと推察されます。

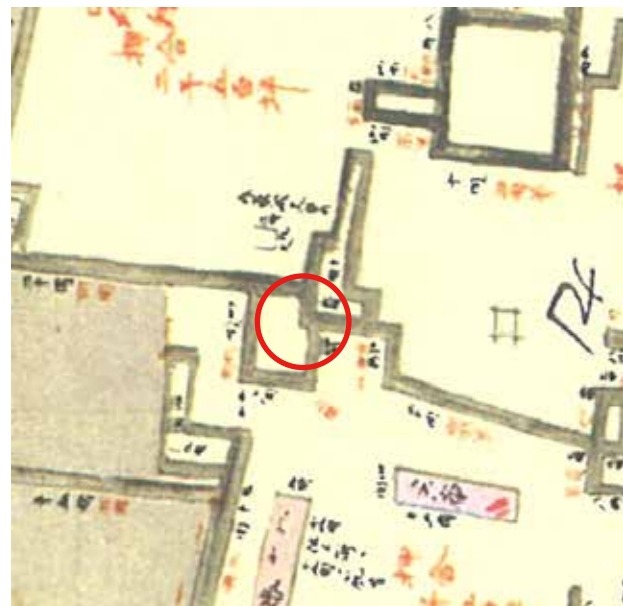
ちなみに昭和 27 年は、本丸跡上段への上水道配水池設置とそれに伴う南龍神社の移転、二ノ丸跡への動物の檻の新設など、松坂城跡が大きく変化した時期にあたっています。調査地が所在する本丸跡上段ときたい丸が接する部分も、それらに関連する事業によりその形状が大きく改変された可能性が高いと推察します。

本丸跡上段ときたい丸接続部の構造

平成 27(2015) 年の第 5 次調査では、本丸上段側で埋没石垣の一部を確認しています。今回確認した石垣隅角部は、この石垣と一連のものと推察します。残念ながら、きたい丸側の石垣は何らかの理由で破壊されており不明な点が多々あります。しかし、2 回の発掘調査成果と絵図による情報から、謎の多かった本丸跡上段ときたい丸が接続する部分、天守跡に隣接して設けられていた虎口の形態をより明らかにする手がかりを得ることができたといえるでしょう。



【写真 11】日本分国絵図 勢州松坂城図(正保頃)



【写真 12】第九区 伊勢国松坂旧城図面
明治 7(1874)～10(1877) 年頃



【写真 13】松坂公園平面図 昭和 47(1972) 年